

## 「神の家族なのです。」 エペソ2章11～19節

聖書における家族は、あまり良い印象は持ちません。アダムとエバの夫婦は、妻が「食べるのに良く」、「目に慕わしく」、「賢くしてくれそう」（創世記3・9）という欲望に従って罪を犯し、夫も誘って神に従うことを破りました。

その子カインは、弟のアベルの献げ物が神に受け入れられたのに怒り、「もしあなたが良いことをしているならば、受け入れられる。しかし、もし良いことをしていないのであれば、戸口で罪が待ち伏せている。罪はあなたを恋い慕うが、あなたはそれを治めなければならぬ。」（創世記4・7）という神の忠告を聞かずに弟を殺してしまいます。

ノアは「主の御心に適っていた。」（創世記6・8）ので箱舟を造り、洪水の後の人類の祖先となりますが、年老いて農夫として働き、疲れて「ぶどう酒を飲んで酔い」（9・21）、裸になって寝てしまいました。ハムの息子カナンがそのノアに悪さをし、ノアの呪いを受けてしまいます。（9・25）。

信仰の父アブラハムの父テラは、息子たちを連れて「カナンの地に行くためにカルデヤのウルを出発した。」（創世記11・31）けれども、途中のハラで諦めて定住してしまいます。そこで、神は、アブラハムに「あなたの土地、あなたの親族、あなたの父の家を離れて、わたしが示す地へ行きなさい」（12・1）と父との決別を促します。

同行した甥のロトは、財産が増えると祝福の源である叔父のアブラハムから離れ、良い地に見えるソドムに移り財産も家族も崩壊させてしまいます。

アブラハムは、多くの困難に遭いながらも、神を信じ、神に助けを求めて生き、「あなたの子孫によって、地の全ての国々は祝福を受けるようになる。あなたが、わたしの声に聞き従ったからである。」（創世記22・18）と約束されます。妻の墓地を作る時も、無償で土地を受けることを良しとせず、高価な代価で買い取ります。信念の人です。

アブラハムには、女奴隷から生まれたイシユマエルと愛する妻サラから生まれたイサクがありますが、兄弟の争いを避けるために、事前にイシユマエルと母を去らせます。無慈悲と言われようが、神の指示どおりに「女奴隷とその子を追出し」（21・10）たのです。

イサクは、争いを好まず、神にも父にも従ったので、「主は彼を祝福された。」（26・12）。妬んだり敵意を持った周囲の人々や王も、イサクへの神の祝福をみて、イサクに盟約を求めます（26・29）。

その子ヤコブは、活力と知恵に満ち、欲望も強かったので、誰よりも多くの試練に遭い、「私の生きて来た年月はわずかで、いろいろな災いがあり、私の先祖がたどった日々、生きて来た年月には及びません。」（47・9）とエジプトのファラオの前で反省を告げていますが、信仰の筋を変えない大人物です。このヤコブがイスラエル民族の始祖です。

さて、このように聖書の家族の在り様を振り返ってわかることは、アダムから続く選びの系統も罪によって洪水で滅び、アブラハムからイサク、ヤコブへと続く信仰の家系も、罪を犯そうが失敗をしようが、悔い改めて神を信じ続けた者は守られるということです。

今日の聖句、「異邦人」（12）とは、未開人、或は野蛮人とも訳される言葉で、ユダヤ人からしたら律法を持たず、知らず、守っていない野蛮人となるわけです。その「無割礼」（12）、つまり、罪人として勝手に歩む者として卑下され、「望みもなく、神もない者達でした。」（12）が、イエス様を信じ、救われることによって「キリストの血によって近い者となりました。」（13）しかし、実は、そのユダヤ人も、選びの民であるにもかかわらず、律法を守らずに神によって罰せられてバビロン捕囚に遭ったのでした。それが、歴史に介入する神の力によって、捕囚から戻されたのでした。「ペルシヤの王、キュロスは言う。『天の神、主は、地の全ての王国を私に与えてくださった。この方が、ユダにあるエルサレムに、ご自分のために宮を建てるよう私を任命された。』（エズラ1・2）。

ユダヤ人は、律法のない勝手に歩む異邦人を卑下し嫌い、異邦人は、律法に従い頑固なユダヤ人を嫌う、そのような敵対関係にあったのです。しかし、キリストの十字架によって「隔ての壁である敵意を打ち壊し、様々な規定から成る戒めの律法を廃棄されました。」（エペソ2・14-15）

キリスト教会が、「聖徒」（16）とされるユダヤ人だけのものであったら、福音は世界に伝わらず、ユダヤ人を否定するものであったら、聖書的前提を否定する軽薄なものとなっていたのです。

「神の家族」（16）とは、血縁によるものではありません。血縁を大事にしますが、聖書から開設したように、夫婦であっても、福音によって繋がっていないければ、憎しみ合い、こじれ、神の家族としての生活はできません。

神の家族という、信仰深く、性格が良く、善意に満ち溢れた人が集うように思いかも知れません。日本人は、信仰者でなくても、そのような理想を掲げ、無理に仲良くしようとして却ってストレスを溜め、或は外面を飾りまです。家族であっても、善良であることが求められ、感情的興奮なく、全てを平安に生きることが理想とされます。しかし、それは、サタンの惑わしです。人間は罪人なので、それほど善良には生きられません。神の家族にとって大事なことは、教会生活を送ることです。行いによる義ではなく、性格による義でもなく、信仰による義が大事なのです。

## 1. 信仰に生きるキリストの弟子の養成

主の弟子は状況に左右されず聖霊に聞き従い、神を信じ人を信じて人々の救いと解放をもたらす。十字架に死んで神と共に生きるとは、自分と人々の罪からくる咎を覚悟し信仰と希望と愛とを持って福音の祝福の中に生きることである。キリストの弟子の養成こそ教会の使命である。

## 2. 真理と祈りと讚美に満ちた信仰生活の指導

聖書の教え、真理は人を自由にする。祈りは問題や悩みを解決し、神の御心を確認する。讚美は癒しと喜びと力を与える。教会はそれらを教え指導し、互いの交わりの中で模範を造り出していく。

## 3. キリストを頭として愛によって結び合わされた共同体の形成

教会には多種多様な人々が神によってこの世から召し出されてくる。この信者を整え、神への奉仕という使命を果たすように導くには、キリストの弟子として十字架を負い主に従う指導者層が確立されなければならない。整えられ愛し合い一致した教会こそ神の栄光が現され成長する。

## 4. 隣人に対する愛に基づいた執り成しと伝道の実践

神を愛する人は人をも愛し、行いを伴う信仰を持つ。真理を知らず罪と咎によって苦しんでいる人々を愛し、執り成し、福音を伝えることによってこそクリスチャンは成長し、祝福される。

## 5. 地域と社会に貢献する魅力的な教会員の歩みと家族形成

教会と教会員の活動・事業・啓発運動を展開し、社会に影響を与えながら、同時に愛し合う家族を形成し、接する人々に福音を現していくことが、日本のリバイバルに必要であると私たちは信じる。

# 今週の聖書

### 【新改訳 2017】

エペ2:11 ですから、思い出してください。あなたがたはかつて、肉においては異邦人でした。人の手で肉に施された、いわゆる「割礼」を持つ人々からは、無割礼の者と呼ばれ、

2:12 そのころは、キリストから遠く離れ、イスラエルの民から除外され、約束の契約については他国人で、この世にあって望みもなく、神もない者たちでした。

2:13 しかし、かつては遠く離れていたあなたがたも、今ではキリスト・イエスにあって、キリストの血によって近い者となりました。

2:14 実に、キリストこそ私たちの平和です。キリストは私たち二つのものを一つにし、ご自分の肉において、隔ての壁である敵意を打ち壊し、

2:15 様々な規定から成る戒めの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、この二つをご自分において新しい一人の人に造り上げて平和を実現し、

2:16 二つのものを一つのからだとして、十字架によって神と和解させ、敵意を十字架によって滅ぼされました。

2:17 また、キリストは来て、遠くにいたあなたがたに平和を、また近くにいた人々にも平和を、福音として伝えられました。

2:18 このキリストを通して、私たち二つのものが、一つの御霊によって御父に近づくことができるのです。

2:19 こういうわけで、あなたがたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、聖徒たちと同じ国の民であり、神の家族なのです。

### 【NKJV】

Eph 2:11 Therefore remember that you, once Gentiles in the flesh—who are called Uncircumcision by what is called the Circumcision made in the flesh by hands-

2:12 that at that time you were without Christ, being aliens from the commonwealth of Israel and strangers from the covenants of promise, having no hope and without God in the world.

2:13 But now in Christ Jesus you who once were far off have been brought near by the blood of Christ.

2:14 For He Himself is our peace, who has made both one, and has broken down the middle wall of separation,

2:15 having abolished in His flesh the enmity, that is, the law of commandments contained in ordinances, so as to create in Himself one new man from the two, thus making peace,

2:16 and that He might reconcile them both to God in one body through the cross, thereby putting to death the enmity.

2:17 And He came and preached peace to you who were afar off and to those who were near.

2:18 For through Him we both have access by one Spirit to the Father.

2:19 Now, therefore, you are no longer strangers and foreigners, but fellow citizens with the saints and members of the household of God,